

「数学Ⅰ・数学A」シラバス

学科	商業科	学年	2年	類型		組	5組	単位数	2
使用教科書	新編 数学Ⅰ (数研出版) 新編 数学A (数研出版)								
副教材等	新課程 教科書傍用 基本と演習テーマ 数学Ⅰ+A (数研出版) チャート式 新課程 基礎と演習数学Ⅰ+A (数研出版)								

1 学習の到達目標

- ① 図形と計量、データの分析、場合の数と確率について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ② ①の内容を学ぶことで、具体的な事象において数学的な表現や処理する能力を身に付け、事象を論理的・多面的な視点で考察し、数学的な見方・考え方のよさを認識することができる。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりごとに、下記の評価項目により、観点別評価と100点法の評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているか。事象を数学的に解釈し、数学的な表現や推論の方法などの技能を身に付けているか。	(3)(4)(5)(6)(7)
思考・判断・表現	事象を論理的に考察・表現し、思考の過程を振り返り統合的・発展的に考えることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。	(3)(4)(5)(6)(7)
主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心を持ち、数学のよさを認識し、事象の考察にそれらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。	(1)(2)(3)(4)(8)
評価方法	主な評価項目	
学習状況の観察	(1)授業に対する取組の姿勢 (2)教師の発問に対する応答	
課題やレポート提出	(3)毎授業後や定期考査前の課題プリント (4)長期休業中の課題	
ペーパーテスト	(5)定期考査 (6)校内模試 (7)小テスト	
ノート提出	(8)定期考査ごとに提出	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	数学 I 第 4 章 図形と計量 第 1 節 三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・鋭角の正弦、余弦、正接の意味を理解し、直角三角形の辺と角の関係を応用することにより、その有用性を理解する。 ・三角比の相互関係を理解し、一つの三角比から他の二つの三角比の値を求めることができる。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鈍角の三角比の値を求めることができる。 	(3)(7)
	第 2 節 三角比の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の辺と角の間に成り立つ基本的な関係として、正弦定理、余弦定理を理解する。 ・正弦定理、余弦定理を使って、一般的な三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角形の二辺とその間の角から面積を求める方法を理解し、いろいろな図形の面積を求めることができる。 	(3)(7) (8)
二 学 期	第 5 章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・分散・標準偏差・相関係数などの各種統計量の算出とその数値の読み方や活用ができる。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する。 	(3)(7)
	数学 A 第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数	<ul style="list-style-type: none"> ・図などを用いて集合の包含関係や要素の個数など集合に関する基本的な事項を学習する。 ・場合の数の意味を理解し、和の法則・積の法則を利用して、効率的に場合の数を求めることができる。 ・順列や組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。 	(3)(7) (8)
三 学 期	第 2 節 確率	<ul style="list-style-type: none"> ・加法定理などの確率の基本性質、余事象の確率を理解し、これらを用いて事象の確率や期待値の計算をする。 ・独立な試行の意味を理解し、その考えを用いて確率を求めることができる。 ・条件付き確率について理解し、簡単な事象において条件付き確率を求めることができる。 	(3)(7) (8)

備考 (1)(2)(4)(5)(6)については、全ての単元において評価項目として用いる。